



今年の教区の目標

すべての命を守るため、 キリストと共なる 平和の道を歩みましょう。

〒902-0067 那覇市安里3-7-2 カトリック那覇教区本部 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474 発行人 W.F.バーント司教 1部40円 http://www.naha.catholic.jp/

予防のために、小禄教会でのこ

禄教会でのミサ、

終戦七十五年の節目にあたる今年の六月二十三日は、

魂晩の塔での祈りの集会は、

全戦没者追悼平和祈念ミサが一斉に捧げられた。

休止となったが、

それに代わって全小教区(十五教会)で午前十一時

新型コロナウイルス感染拡大

例年行っている平和巡礼

正午には、

沖縄県民と共に黙梼し

和を祈念した。

(1) 2020年7月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第740号 (7月号)

那

十五教

沖縄 2020年6月23日 11:00am

スクリーンを用意して、 に耳を傾けた。 「平和メッセージ」 の

からも毎年のように送られて 折って各小教区から集めた 例年教区女性の会が祈りと共 鶴のロザリオ」と、 札幌教

司教が平和メッセージを朗読し ページ参照)が朗読される予定 の前で「日本カトリック司教団 かったが、 可式された。また、 たものをDVDで送っていただ 教協議会会長の高見三明長崎大 であった。そこで安里教会では て共同祈願や奉納をお手伝い頂 小教区から代表者を送って頂い 司教の押川司教と谷司教が共同 任司祭のフランシス神父と名誉 和メッセージ」(本紙四~五 緒に魂魄の塔まで巡礼し、 メイン会場となった安里教会 コロナ禍の影響で叶わな ウェイン司教が主式、主 ごミサと黙祷が終了して 当初日本の司教団 本島内の各 日本司 朗 塔 も

魄の塔」に運ばれ奉納された。 よってわたしたちがいただいた 教皇フランシスコの日本訪問に および各地の共同体と心をひと で奉献され、ミサの後に、 和委員会スタッフの手で「魂 「平和メッセージ」は、「激戦 安里に建つ教会に集う方々、 神に願い求めます。 教区

くる千羽鶴が合わせてミサの 中

ゆまない意志と希望のうちに、 に生きる私たちも、 の息吹が豊かに注がれますよう 平和 キリストの復活のいのちと聖霊 に」と結ばれている。 沖縄、 和を希求して祈り、 への意志と希望に

の人々と心を合わせて共に歩ん で参りましょう。 那覇教区にあって信仰 平和へのた 歩む全て イエス・





Share the Journey through Learning...

Doing something new is fun and enjoyable. Last June 20, 2020 Caritas-Naha launched a Free Basic English Conversation Class for Senior's at the Catholic Bunka Center. There are ten students from three parishes for the start of this program. It is a project designed to minister to the senior members of our community who despite of their age showed interests in learning the language and hopefully to reach out to the growing numbers of foreigners coming in their respective parishes. It is an opportunity to learn and share for both the students and volunteer teachers from the Filipino migrant community. The project was formed thru the inspiration of the last year campaign of Caritas Japan - "Share the Journey" (Caritas Japan排除Zeroキャンペーン). Although the class is only once a month I am sure of one thing, we will continue to "Share the Journey" of learning together. (Caritas Naha-Team Share)



Volunteer Teachers



Pair -Activity



Students



Students

COMING EVENT! Naha Diocese- 2020 Summer Camp Picnic



August 8, 2020 - For Elementary Students

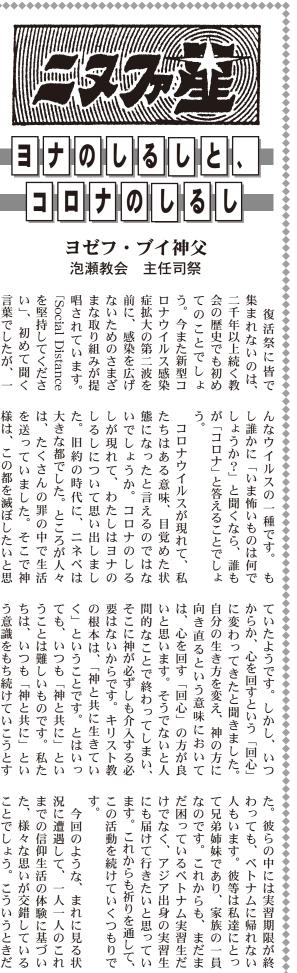
August 10, 2020 - For Junior and Senior Students

Program: 9:30 Orientation 10:00 Holy Mass 11:30 Lunch time 13:00 Swimming

16:00 Sharing 17:00 Home Sweet Home

For Inquiries: Fr. Joachim Hoai -

Camp Director (cell no. 080-3966-4430/098-897-7484)



ヨゼフ・ 神父 ブイ 泡瀬教会 主任司祭

事もすべて中止されています。 飛ばないし、 起こっているのでしょうか?空 まっているし、楽しい場所も行 港には人がいないし、 か?いま私たちの世界では何が を呼び掛けているのでしょう 新型コロナウイルスによっ 神様は現代のわたしたちに レストランは閉 飛行機も

止されるか、別のやり方で祝わ 染拡大を受け、一連の行事は中 オンラインでの参加を促して 多いですが、ミサや説教などの れました。感染拡大に伴い、信 様子を可能な限りオンラインで 伝え続けています。 トを細かくネットで告知し が参加できなくなった祭儀は 教会も、コロナウイルスの感 日々のイベ

> い」、初めて聞く を堅持してくださ 前に、感染を広げ 症拡大の第二波を 言葉でしたが、 まな取り組みが提 ないためのさまざ 唱されています。 ロナウイルス感染 Social Distance

わち、 しまうと、非常に残念です。 知らず、心の問題にまで及んで 次元にとどまっているならいざ 効果のある手段は、隔離、すな あります。感染防止のもっとも いうことです。隔離が物理的な てください」という呼びかけも 方で、「とにもかくにも自宅にい 人と人とが接しない、と

なります。 染し、いろいろな病気の原因に い小さいもので、人や動物に感 ウイルスは目に見えないくら コロナウイルスもそ

> たちはある意味、 が「コロナ」と答えることでしょ しょうか?」と聞くなら、 し誰かに「いま怖いものは何で んなウイルスの一種です。 コロナウイルスが現れて、 目覚めた状 誰も 私

てのことでしょ

会の歴史でも初め 二千年以上続く教

う。今また新型コ

集まれないのは、

復活祭に皆で

の人々は、預言者ヨナの言葉 がら叫び続けました。ニネベ に入って、街のなかを歩きな した。それでヨナは、 めに預言者ヨナを遣わされま の都の人々に警告を与えるた 様は、この都を滅ぼしたいと思 を送っていました。そこで神 しが現れて、 態になったと言えるのでは を熱心に聞きました。 いましたが、滅ぼす前に、こ 大きな都でした。ところが人々 た。旧約の時代に、ニネベは しるしについて思い出しまし いでしょうか。コロナのしる たくさんの罪の中で生活 わたしはヨナの まず都 な

神様は、ニネベの人々が悔い改 高い者も、低い者も粗布を身に じて、断食をおこない、身分の ネベの人々は、 める心のあることを知り、 ~5) その態度をご覧になった まとい始めました。(ヨナ三・4 を許してくださいました。 預言者ヨナの言葉を聞いたニ すぐに神様を信

を改めるという「改心」を使っ とは「回心」を意味しています。 かいしん」という漢字は、 ここで言っている「悔い改め」

う意識をもち続けていこうとす ちは、いつも「神と共に」とい 自分の生き方を変え、神の方に ることが信仰の基本となりま うことは難しいものです。 く」ということです。とはいっ 要はないからです。キリスト教 間的なことで終わってしまい、 向き直るという意味において からか、心を回すという「回心」 ていたようです。 ても、いつも「神と共に」とい の根本は、「神と共に生きてい そこに神が必ずしも介入する必 いと思います。そうでないと人 に変わってきたと聞きました。 心を回す「回心」の方が良 しかし、 私た

難な時期にあっては、互いの命 とを第一に考えましょう。 かな思いやりの心で支え合うこ を守ることを最優先に考え、豊 ればなりません。特に、この困 また、信仰は愛を実現しなけ

券を、そして知り合いのバプテ 安里教会・開南教会などのベト たくさん頂きました。 シャンプーなどの日用品などを スト教会の牧師からは、 ナム司祭達から、寄附金や商品 たり、泡瀬教会の信徒の方々・ ○○キロ、 六月はイエスの御心の月にあ 缶詰め、ラーメン、 お米

石川にそれらを届けに行きまし 生活に困窮しているベトナム人 実習生の住んでいる名護・本部 私は、友達の司祭とともに、

マリアの取り次ぎのもと、

ある神に祈りましょう。

す。 この活動を続けていくつもりで にも届けて行きたいと思ってい けでなく、アジア出身の実習生 なのです。これからも、 て兄弟姉妹であり、家族の一員 わっても、ベトナムに帰れない ます。これからも祈りを通して、 だ困っているベトナム実習生だ 人もいます。彼等は私達にとっ 彼らの中には実習期限が終 、まだま

がら、愛といつくしみの心を う確信を深めていきましょう。 ことでしょう。こういうときだ 持って、感染した方々の回復と、 おけるいのちへの希望をもちな 仰を生きているのです。信仰に で生きているのではありま 常に主イエスの体である一つの 見えない形でも、わたしたちは 人で祈るときにも、それが目に ためて思い起こしましょう。 からこそ、わたしたちがキリス までの信仰生活の体験に基づい 況に遭遇して、一人一人のこれ に、ともに道を歩みながら、 へと招かれていることを、 ト者として、主イエスとの一致 た、様々な思いが交錯している 日も早い事態の収束を、 (同体に結ばれているのだとい 今回のような、 わたしたちはこの信仰を一人 目に見えないきずなのうち まれに見る状 聖 信 せ

戦後75年 日本カトリック司教団平和メッセージ

沖縄慰霊の日 2020.6.23

日本の教会の兄弟姉妹とすべての善意ある人々へ

日本のカトリック司教団は、戦後 50 年に『平和への決意』、60 年に『非暴力による平和への道――今こそ預言者としての役割を』、そして 70 年に『平和を実現する人は幸い――今こそ武器によらない平和を』と、その時々の国内外の情勢に鑑みながら平和メッセージを発表しました。2019 年の教皇フランシスコ訪日から明けた今年は、太平洋戦争での沖縄戦、広島・長崎の被爆、戦争の終結、そして国際連合創設 75 周年です。世界は今、新冷戦、東アジアの不安定な情勢、核の脅威、地球環境の危機などが予断をゆるさない状況にあります。本日、わたしたち司教団は、沖縄慰霊の日の平和巡礼への参加を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止せざるをえませんでした。しかし、心は常に沖縄の人々とともにありたいと願っています。沖縄に建つ戦争犠牲者に対する慰霊と不戦の誓いの原点である魂魄の塔に想いを馳せ、平和についてのわたしたちの考えを述べ、これからの行動指針としたいと思います。

1. 魂魄の塔に思いを馳せる

終戦の年、沖縄は本土決戦を一日でも遅らせるための「捨石」とされ、住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が繰り広げられました。歴史上、最も凄惨な戦闘と言われるこの沖縄戦では、日米両軍が我が物顔でこの小さな島のありとあらゆるものに対し、蹂躙の限りを尽くしました。鉄の暴風ともよばれる激烈な戦闘の後には、戦争犠牲者の遺骨が累々と野ざらしにされていました。この遺骨を住民たちが自らの手によって集め、慰霊碑を建て、祈りの場としました。

この「魂魄の塔」は、数ある慰霊碑の中でも特別な意味を持っています。元々は住民自らの手によってなされた 遺骨収集による骨塚でした。それが、やがて沖縄の人々の戦争犠牲者に対する慰霊の原点と見なされるようになり、 さらに、名もないごく普通の人々の反戦平和への希求の原点、不戦の誓いの原点ともなっているのです。

沖縄県平和祈念資料館の出口に、「むすびのことば」として次のように刻まれています。

(略) 戦争をおこすのは たしかに 人間です しかし それ以上に 戦争を許さない 努力のできるのも 私たち 人間ではないでしょうか (略) これが あまりにも 大きな代償を払って得た ゆずることのできない 私たちの信条なのです

戦争、基地、軍備増強に反対する沖縄の人々の切実な叫びは、「戦争というものは これほど残忍で これほど恥辱にまみれたものはないと思う」に至った沖縄戦の体験からきているのです。しかし、こうした沖縄県民の信条の訴えにもかかわらず、この沖縄を「捨石」とした扱いは75年を経てもなお、その自己決定権を無視するという事実をもって脈々と続けられています。

あらゆる戦争を憎み、命を大切にしようとする沖縄県民の訴えに応え、今日、「魂魄の塔」に思いを馳せて、すべての戦争犠牲者のために祈りを捧げつつ、平和希求への決意を新たにし、行動を起こしましょう。

人のいのちは何ものにも替えがたいとする沖縄の「ヌチドゥ宝」の心と、「すべてのいのちを守るため」という教皇フランシスコ訪日のテーマは重なっています。「いのちと美に満ちているこの世界は、何よりも、わたしたちに先立って存在される創造主からの、すばらしい贈り物」です。「『わたしたちが、自分たち自身のいのちを真に気遣い、自然とのかかわりをも真に気遣うことは、友愛、正義、他者への誠実と不可分の関係にある』(回勅『ラウダート・シ』70)のです」。それゆえ、戦争だけは、どんな理由があっても絶対に起こしてはなりません。わたしたちキリスト者は、こうした沖縄の人々の叫びと教皇フランシスコの言葉に共鳴し、戦争放棄と恒久平和を訴えます。「すべての人との平和」こそ、神の望みだからです。

2. カトリック教会の非暴力による平和への立場

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は39年前(1981年2月)広島で、次のような力強いメッセージを述べました。 「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。……過去をふり返ることは、将来に対する責任を負うことです。……人類同胞に向かって軍備縮小と、すべての核兵器の破棄とを約束しようではありませんか。」

このアピールに応えて、日本の司教団は、翌年、平和について考え、平和のために祈り行動するため「平和旬間」 (8月6日~15日)を設け、平和や人権の問題について積極的に発言し始めました。

日本司教団の発言は、2017 年「世界平和の日」の教皇メッセージと重なります。教皇は、「積極的非暴力」の立場を表明して、「非暴力がわたしたちの決断、わたしたちの人間関係、わたしたちの活動、そしてあらゆる種類の政治の特徴となりますように」と述べています。

またこの立場は、同年8月に教皇が『カトリック教会のカテキズム』の死刑に関する記述を変更し、「死刑は許容できません。それは人格の不可侵性と尊厳への攻撃だからです」(2267)と、死刑廃止の立場を明確にしたことにもつながります。

さらに同年9月20日、バチカンは、核兵器禁止条約に他の2カ国と共に最初に署名・批准し、11月には「核兵器のない世界と総合的軍縮への展望」国際会議を主催しました。その場で教皇は次のように述べました。「核兵器の使用と威嚇のみならず、その保有そのものも断固として非難されなければなりません。この点で極めて重要なのは、広島と長崎の被爆者、ならびに核実験の被害者の証言です。彼らの預言的な声が、次世代への警告として役立つよう願っています。」「核抑止論」については、聖ヨハネ23世教皇がすでに回勅『地上の平和』(1963年)の中で次のように述べています。「軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にしか構築できないという原則に置き換える必要があります。わたしは、これが到達可能な目標であることを主張します」(60)。

3. 教皇訪日平和メッセージ

昨年11月、教皇フランシスコは、平和の巡礼者として「激しい暴力の犠牲となった罪のない人々を思い出し、 現代社会の人々の願いと望みを胸にしつつ、じっと祈るため」、長崎と広島を訪れました。教皇は、誰よりも平和 を希求する高齢化した被爆者たち、「平和のために自らを犠牲にする若者たちの願いと望み」、「いつの時代も、憎し みと対立の無防備な犠牲者」である「貧しい人たちの叫び」、「声を発しても耳を貸してもらえない人々の声」、「現 代社会が直面する増大した緊張状態を、不安と苦悩を抱えて見つめる人々の声」、小さくともつねに軍備拡張競争 に反対する声 といった、さまざまな声を代弁して世界に訴えました。教皇は誰をもはばからず、平和という究極の モラルに向き合い、特に軍備と核兵器について踏み込んだ強いメッセージを述べました。「軍備拡張競争は、……貴 重な資源の無駄遣いです。……武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いっそう 破壊的になっています。これらは途方もないテロ行為です」。「戦争のために原子力を使用することは、……犯罪以 外の何ものでもありません。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる 可能性に反します。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。……核兵器の所有も倫理に反します」。そして、 教皇はすべての人々に呼びかけます。「核兵器から解放された平和な世界。……この理想を実現するには、すべての 人の参加が必要です。個々人、宗教団体、市民社会、核兵器保有国も非保有国も、軍隊も民間も、国際機関もそう です。核兵器の脅威に対しては、一致団結して具体性をもって応じなくてはなりません。」カトリック教会にとって、 「人々の間と国家間の平和の実現」に向けて努力することは、「神に対し、そしてこの地上のあらゆる人に対する責 務なのです。」教会は、「核兵器禁止条約を含め、核軍縮と核不拡散に関する主要な国際的な法的原則に則り、飽く ことなく、迅速に行動し、訴えていくことでしょう」。

教皇のこの発言に呼応して、日本カトリック司教協議会は、昨年12月、会長名の文書で、首相宛てに「核兵器禁止条約への署名・批准を求める要請」を行いました。米国カトリック司教協議会国際正義と平和委員会も教皇フランシスコの広島・長崎での発言を支持し、「米国は非核化・軍縮の先頭に立つべきである」と政府に働きかけていくとの声明を発表しました。またカナダとドイツの司教団は、すでに昨年、バチカンの核兵器廃絶方針を支持する声明を出していましたが、最近の教皇の姿勢に促されて、核抑止政策に甘んじてきた態度を改めると表明しています。

4. 平和は希望の道のり

今年は、朝鮮戦争開戦 70 周年でもあります。同じ民族が戦うという悲劇も、35 年に及んだ日本による朝鮮統治政策と無関係ではありません。朝鮮戦争は今なお禍根を残し、日本を含む東アジアは冷戦体制を引きずり、大国の利害の狭間で戦争の火種を抱えており、平和への進展が不透明のままです。東アジアの平和構築にいかに貢献していくかは、わたしたち日本の教会が教皇フランシスコの言葉に従うことができるか否かを明らかにする試金石だといえましょう。そのためにもわたしたちはこうした過去としっかりと向き合い、将来に対する責任を担い続ける決意を新たにするものです。

教皇は今年の「世界平和の日」メッセージで、平和への歩みは「障害や試練に直面する中で歩む希望の道のり」、つまり、「真理と正義を求め、犠牲者の記憶を尊重し、報復よりもはるかに強い共通の希望に向けて一歩ずつ切り開いていくという、忍耐力を要する作業」と述べました。そして、「たとえ克服できそうもない障害に直面しても、わたしたちを踏み出させ、前に進む翼を与えてくれる」希望の徳をもって、「神という共通の源に根差した、対話と相互信頼のうちに実践される真の兄弟愛を追い求めなければなりません。平和への願いは、人間の心に深く刻まれています」と、平和を実現するために、希望の翼を広げるよう促しました。パウロが、「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい」(コロサイ3・15)と勧めているとおりです。

激戦地、安里に建つ教会に集う方々、および各地の共同体と心をひとつにして、神に願い求めます。教皇フランシスコの日本訪問によってわたしたちがいただいた平和への意志と希望に、イエス・キリストの復活のいのちと聖霊の息吹が豊かに注がれますように。

*戦後75年日本カトリック司教団平和メッセージで検索しパソコンやスマホでYouTube動画がご覧いただけます。

2020年6月23日 日本カトリック司教団

2020年6月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2020年6月2日(火) 10:00~12:00 開催場所:教区センター

1. 報告及び連絡事項

- ・司会はヨアキム神父。前回(5月会議)の議事録確認-新田。
- ・ウェイン司教より日本司教団の平和メッセージ発表について報告が行われた。日本の司教団は、戦後75年を迎えるに当り、那覇教区の平和巡礼に参加して、「魂魄の塔」の前で「平和メッセージ」を発信する予定であった。ところが新型コロナウイルス感染症の影響で、司教団が沖縄に集結することは難しくなった。また、那覇教区でも「平和巡礼」の開催は困難との認識から、各小教区で同じ時刻、午前11時からミサを捧げ、お昼12時に1分間の黙祷を行う意向であることが報告された。ウェイン司教は安里教会でミサを主式し、各小教区から代表者2、3名を安里に参列させて欲しいとの要請も行われた。また、司教団の平和メッセージについては、予めDVDやプリントを準備するので、平和祈念・追悼ミサの中で活用するよう要望があった。

2. 審議事項

- ・ウェイン司教より、新型コロナウイルス感染防止対策への各司祭たちの協力に感謝がまず述べられ、その後、各小教区の取組みについて分ち合いが行われた。主日のミサを3回もしくは2回に分けて行ったり、手の消毒やソーシャルディスタンシングに配慮して、椅子にマーキングしたり、案内係りを置いて指示を出したり、様々に取組んでいることが報告、紹介された。各司祭たちからの報告を受けて、今後観光客の増加や仕事で沖縄を訪れてミサに与る方々も増えると思うので、引き続き危機意識をもって対応していくよう更なる要請が行われた。
- ・6・23慰霊の日の取組みについて、平和委員会から谷司教による説明とミサ式次第の配布、提言が行われた。戦争で 犠牲となられた方々の名前を、共同祈願や奉献文の中で読み上げられるよう各小教区で工夫した取組みがあっても良 いだろうし、司教団の平和メッセージを代表者が朗読したり、映像で見れるような準備ができるのであれば、大いに 活用するようにとの提言が行われた。
- ・サマーキャンプに向けた取組みについて、担当司祭のヨアキム神父より報告が行われた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏休みの日程が地域によりまちまちで、日程調整が困難な状況であることが報告された。1日だけの開催とか、海水浴とBBQのみの集いとか、9月まで待ってみるとか、小教区開催に代える等、様々な意見が出て、引き続き担当者と司教とで協議していくこととなった。
- ・名護教会からの依頼について。他の小教区とも関連することとして、司祭会議で取り上げられた。教会は大きな敷地を有して、木々や緑も沢山あるが、時間の経過と共に、木々が大きく育ち、近隣への迷惑となることもある。大きく育ちすぎた木々の伐採は素人では危険を伴うため、業者に委託することになるが、名護のケースでは大きな出費となることが見積もりを取って確認できた。そのため、教区への費用援助の相談が寄せられたのだが、今後こうした問題は他の小教区でも起こってくると思われるので、各主任司祭たちは小教区の管理責任者として、自分たちの教会敷地にも注意を払ってほしい。名護のケースでは別の業者からも見積もりを取るなどの比較検討をした上で、教区の一時立替払いなどの措置を協議していく方向であることが報告された。
- ・教区司祭たちの黙想会について、司教から提案された。恒例の3教区合同黙想会が新型コロナウイルス感染拡大の影響で来年に延期されたのを受け、那覇教区の司祭たちのための黙想会があっても良いのではないかとの意見が寄せられている。宿泊はせずに講話だけを聞くとか、日程を短く設定して行うとか、次回7月の会議で様々な提案を寄せてもらって、ブイ神父を中心に計画してもらいたい。
- ・信徒評議会の開催について。新型コロナウイルスの影響で延び延びになっていた信徒評議会を8月29日(土)午後2時から5時の予定で開催したい旨司教から報告があった。宮古、石垣からは、リモートによる参加も検討したい。
- ・5、6月予定の司教訪問が延期になった小教区について、マーシーさんから新たな日程の調整が行われた。それに伴い、司教の公式訪問も、司教司式ミサと挨拶のみといった、従来とは持ち方が変わってくるであろうことや、3回に分けてミサが行われているところでは、司教は3回とも司式するつもりでいることも報告された。
- その他
- ・司祭の質問を受けて、ウェイン司教からはソーシャルディスタンシングを含め、現在行われているミサの形をいつ元 に戻せるのかを明確に述べることは現時点では難しい。沖縄県の方針や社会の情況に照らして考えて行くことになる との回答があった。
- ・次回拡大司祭助祭会議は7月7日(火)午前10時~12時、教区センター(安里)で行われる。

2020年6月16日

記録: 新田 選 承認: ウェイン・フランシス・バーント司教

うお恵みを頂

リックに出会

章」が私の心

「言葉・文

に落ち、カト

のはからいで、 きました。姉

イエスのまなざしを、

れました。私はいつかまなざ 様がたとえと体験をお話しさ 今もその記憶を大切にしてい しを感じる信仰を持ちたいと、 た事はありますか」。ある神父

書やカトリックの本が目にふ らの学生生活でした。姉の聖 .居してアルバイトをしなが 私は高校卒業後上京し、 姉と

すれば、 戻され、 神様やまわりの人を愛すると 思い込む姿に自分を忘れても、 り育ててくれました。また「信 話も聞いてくれて、信仰を守 きました。姉はいつも、 仰を理解したつもりでも、とも にいてくださる」と話し、私の な時は神様は必ず私たちと共 本当の自分を見つけて信仰 実感を感じとれないと 立ち直り、 力づけて頂 「そん

ました。 人を訪れると学ばせてもらい を改める時にこそ救いがその かわりは互いに受け入れ、過ち わらせて頂くうちに、 人との

現できない信仰体験や、 します。どんな時にも、 に欠ける私であることを実感 し示す道を目指したいと思い 信仰の実感。こんな言葉で表 教会のお仕事を先輩 愛の指 謙虚さ

仲盛 一恵 と思います。 ける姿勢で進みたい 深い愛の声に耳を傾 者している子どもと 神は愛です。

ミサ侍

石垣教会 マリアクリスティナ

まってくださいます。」(一ヨハ の内にとどまり、 もその人の内にとど にとどまる人は、 神神愛

神 :様の 愛を信じて 待ち望む

南

スターから学

公教要理をシ

チアにあこが

白いホス

教会では典礼や会計の事をさ のです。そして三十年経過。小 せて頂いております。 中学生の子どもの母親となり 洗礼のお恵みをいただけた

や弱さでつまずきもありまし 穏やかな時ばかりでなく、迷い くださった神様に、教会に呼び 帰天に、それまで待っていて 振り返りますと、信仰生活は しかし、人生の節目、

を感じとれるんだ」とも話して

けるうち、 この身を委ねようと思います。 抱く子供のように、神様の愛に で心が沈んだ時もありました。 会いに、相手のために自分を差 し出すことや、頑張っても後悔 しかし、子育ての中で自分が 自分が避けたくなる人の出 教会のお仕事にかか 赦しの秘跡を受

ネ四・16

教区 IN E

信徒はコロナウイルス感染予防 年の小教区の記念ミサの日。

この日は、

石垣教会六十七周

洗礼式と初聖体

石垣教会

シエナのカタリナ石垣真由美さ 茉陽路(まひろ)三歳が幼児洗 光を見つめながら、主の昇天の りましたが、復活のキリストの 日にまひろちゃんのお母さん、 五月二十四日に、ミカエラ石垣 の「家庭祭壇で祈る」こととな んの洗礼式が行われました。 今年の御復活は、 聖霊降臨主日の五月三十一 それぞれ

神様の声を、慈しみ

から引き継ぐなかで、

でした。義父の石垣信光さんは、 喜びを伝えておられました。 洗礼を望んでいました。」と感謝と 勧められての入信でなく

自ら 四世代信者ファミリーの入信式

のお恵みを頂きました。 の秘跡を頂き、十四日に初聖体 を続け、前日十三日(土)にマ 仲盛一恵さんが引き継いで勉強 てもらい、八月からは平良喜与、 すけ)君、マリア崎山愛鈴(あ らシスターに初聖体の勉強を見 いりん)さんの二人が、昨年か 十四日にペトロ大浦湊丞(そう イケル神父様から初めての赦し キリストの聖体の主日の六月

クララ

のため二回に分けてミサにあず いたしました。(河口儀子通信員) しみに信頼して、みなひとつの かっていますが、神様のいつく 心をもって神様のお恵みに感謝 71 堅

おめでとうござい ます

名護教会(五月三十一日)

開南教会(五月三十一日) マリア クララ 池間 松川美奈江 友美

パトリック マリア・ルカ ミカエラ 本村信一郎

7那原教会(五月三十日) ヨゼフ ロザリア ヴェロニカ・シモン 島本健生 マグダラのマリア 島本恵美子 兼次 井口 智 子 教二

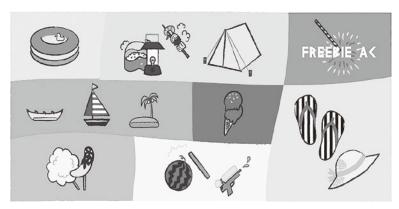
石垣教会 ミカエラ 五月二十四日) 石垣茉陽路

シエナのカタリナ 石垣真由美

(五月三十一日)

サマーキャンプ2020における内容変更のお知らせ

第53回那覇教区サマーキャンプ2020! 今年はピクニック月



日時: 2020年8月8日(土) 小学生の部 2020年8月10日(月) 中高生の部 申し込み締め切り: 2020年7月26日(日)

参加対象: 小学校1年生~

参加費: 無料

プログラム

09: 30受付10: 00ミサ11: 30バーベキュー13: 00海水浴16: 00分かち合い17: 00解散

今年も3月からサマーキャンプの準備に取り掛かっておりましたが、コロナウイルスにおける影響及び、今後の第2波の感染動向への懸念がありますが、祈りのうちに那覇教区の子供達のために検討を重ねているところです。

今年度は、準備期間への影響が大きかったこと、そして予測がつかない状況でのキャンプの運営をやむなく中止する決断をいたしました。ですが、子供達が一年に一度楽しみにしていることを思うと、安全を確保しつつ交流できる機会へと計画変更しております。今年度は小学1年生から参加できるよう機会を設けておりますので、順調な開催が行われる際にはぜひ参加してください。

申し込み期限までに主任司祭へ申込書の提出をお願いします。また、状況に応じて中止となる場合もありますのでご了承ください。ポスター、申込書を各小教区で取りまとめていただき、2020年7月26日までにご提出お願いします。 (ヨアキム神父)



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:**098-937-5001** 住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)

·営業時間 8:30~17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

◆石垣教会

パウロ 玉元 善栄 様 2020年6月15日帰天 享年83歳

◆首里教会

フランシスコ 金城 勲 様 2020年6月29日帰天 享年86歳



私たちは故人とご遺族の意向 を最優先に考えます。何でもご 相談下さい。

那覇市首里烏掘町4-57-3 TEL&FAX:098-885-8205 http://w1.nirai.ne.jp/yasurai E-mail:yasurai@nirai.ne.jp りい企画 24時間 受付

~ご遺族の心をもって奉仕する~

そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。 「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ (実務担当) 比嘉 高茂



☎098-**853-1059**

